たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行　2003年7月28日

３６号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL　045-562-3600

FAX　045-562-5991

いよいよ設計の検討へ

７月も後半にはいると、何となく待たれる夏の休みに向けて、たのしい計画の一つも考えたいという頃です。今年は何だか、涼しい日が続き、あの抜けるような青い空と明るく照り付ける太陽が恋しくなりますね。

さて、私たちを取り巻く横浜の福祉の情勢は、今年もいろいろ紛糾していますが、そろそろ来年度予算に向けての要望書をまとめる時期になりました。

地域活動ホームのデイサービスは、いよいよ４月から支援費が導入され、職員も利用者も新しい制度になれるまで、少なからず戸惑いやら試行錯誤やらもあり大変。

地域作業所連絡会は、今年度の予算削減の問題に引き続き取り組んでいて、なんとか例年通りの所まで復活させたいと、市議会に陳情にするか、請願がいいのか、署名運動をどう進めるかと頭を絞り... そして、横浜市の在宅障害者援護協会（在援協）と市社会福祉協議会との一体化に関するたくさんの議論....。

常に障害者の視点に立ち、横浜の障害者福祉の発展の上で大きな役割をはたしてきた在援協の活動は、まさに地域で活動してきた当事者や親達の頑張りの上で拡大されてきたものです。これは皆の大きな財産であるといっても良いと思います。この機能を新しい明日の福祉の現場でどう受け継いでいけるのか、今多くの人達の関心の的になっています。ことに地域で暮らす障害者たちにとっては、さらに発展させる必要に迫られてこそいれ、後退は死活問題につながっているのです。

＊　　＊　　＊

さて、こんな中で、新しいよつばホーム第二館目への取り組みが、来年３月の下旬の完成を目指し、具体的な準備活動にはいっています。

建設地は：港北区新吉田町　（今の「よつばホーム」から歩いて３分ほどの所です。）

建　物は：建築面積 195 ㎡（約 59 坪）で、入居者に合わせ設計の検討を進めています。

入居者は：４人（男性２名、女性２名　いずれも重度重複身体障害者）

スタッフ：現在常勤職１、非常勤職１名養成中、（さらに職員を募集中です。）

これからリハセンターなど関係機関と連携を取りながら進めております。

ボランティアに参加して

笹瀬　スマ子

私がボランティアに参加するようになったのは、長年の会社つとめを終わり、いろいろと自分のすきな習い事ばかりをやってる毎日では、むなしい感じさえ覚えるようになったころでした。その時ちょうど町内会の回覧板に活動ホーム「しもだ」の新聞があり、ボランティア募集の記事を見て、あっ「これだ」私にも出来ることがあればと思ったのが始めたきっかけです。

はじめは大変不安に思いましたが、みなさんにお会いするたびに、自分が勇気づけられ、みんなの笑顔を見ていると、いろいろとおしえられる思いです。おかげで活動ホームに来るようになって、音楽、お花、習字、散歩等々まだまだあり、皆さんと一日を過ごせる事が楽しみです。これからも、みなさんに負けないように、がんばって行きたいと思っています。

めがねのこえ

今年は　涼しくて「むぎ茶を飲みたい」とも「暑いな」と言う声も聞かないけど　盆おどりの声を聞くと　「夏の夜なんだ」と思います。

今年も　おさそいいただいて　盆おどりに行きました。

はじめは　障害者も地域に　顔を出すことが　大切だと思って参加していましたが、今では盆おどりの曲も少し覚えて前の人につづいて　おどるのがとても楽しくなりました。

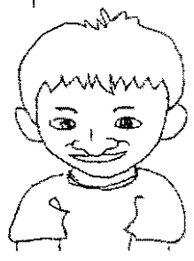
いつもボランティアに　来て下さる人が来ていると　一緒に　おどって下さったりします。私は　車イスの上で手のところをおどります。（振り回しているだけに見えるかもしれませんが・・・）そして　押してくれる人たちが足のおどりをおどります。　二人で一人です。夏の楽しみのひとつになりました。

子供たちもたくさん来ていて、ちょうちんがたくさん下がった広場は、いっぱいの人でした。私は子供たちとも触れあったり　ぶつかりそうになったりして、かき分けながら進みます。「めいわくかなー」と思うのですが、「くるまいすだよー！」と声をかけて道を明けてくれたりすると、なんとなく一緒に参加している気がしてたのしかったです。　いつも思うのですが、みんなも家のそばのいろいろな集まりに「車イスがここにいるよー！」という気持ちで参加したらどうでしょうか。

大原友子

グループホーム２館めメンバー紹介

阿部　健市さん



ぬけるような白い肌
声をかけられると真っ赤になり、
ちょっと困ったように視線をそらす
しかし　愛するものにはじっと熱い視線を送り続ける
ゆったりとした動きは、周囲の時を止める
ウルトラマン，バス、コーヒー、この３つがそろうと
“ウッホホ～～”と今まで秘めていた力が目覚め,、
大笑い、大きな声、素早い動きと
いつもの健市さんとは別人になる時がある。

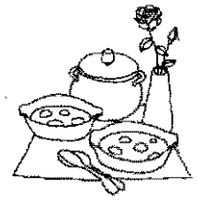
さば味噌煮グラタン？

野口　儀子

よつばホームにお世話になってからはや１年１０ヶ月に成りました。入居者の皆さんと過ごす日がとても楽しいです。毎週金曜日には１人１人が楽しみにしているリクエストメニューにしています。

ある日のメニューの１例を紹介します。（福田次郎さん）

サバ（カンズメ）みそ煮グラタン
ごぼうとかまぼこのサラダ
スープ（コンソメ）わかめ、えのき等



さば味噌煮グラタンの材料　４人分

さば味噌煮缶	２缶（４００ｇ）		
玉ねぎ	２個		
塩，コショウ	少々		
酒	大さじ１	マヨネーズ	大さじ３
サラダ油	大さじ２	生クリーム	大さじ２
マヨネーズソース		牛乳	大さじ２
		とろけるチーズ	４０ｇ

私も初めて作るのでどんなグラタンなのかとても心配でしたが、できたら少々味見をしたところなかなか美味でした。皆さんとてもよろこんでくれてほっとしました。

これからも皆さんによろこんでもらえる様に頑張っていきたいと思っています。

今月のよつばホーム

今月はアルバイトの方の紹介です。

４月からよつばホームでアルバイトをさせていただいております、村上　由佳（むらかみゆか）です。大学では心理学を専攻し、教育や福祉など『人』に関わる学問について一通り学んできました。社会に出て今年で３年目になります。今年３月まで東京多摩市の児童館で脳性麻痺の障害を持つ女の子の介助を仕事としていました。

現在は川崎の中学で相談員（先生とは異なる立場で生徒、保護者、教師の方々への心理的サポートを行うもの）を、また、不登校だった女の子のメンタルフレンド（自宅に伺い、おしゃべりなどするもの）などを中心に、私が専門とする心理学を生かしたお仕事をさせていただいております。

将来は再び大学に戻り、もっと深く、体系的に勉強し直し、研究した上で、より良い「援助のあり方」を模索し実践していくことが出来たらと考えております。
今はその準備期間として、広い視野で様々なお仕事を通して、体験的に多くのことを学ばせていただいているところです。

入居者の声

高畠勢津子さん

☆グループホームでの生活は、楽しいです。ビーズ手芸をやったり、ヘルパーさんたちとも良くお話をします。家族のこととか、健康の話し、ビタミンなど栄養の話なんかもしますね。

☆入居する時は、不安もありました。発作があるし「やっていけるのかなー」と思って。　でも皆に励まされたりして....。今はとても良かったと、皆さんに感謝しています。

ご入会・ご継続ありがとうございます。

（敬称略）

《賛助会員》

山田　秀夫　　佐藤恵美子
清宮　一恵　　菅井とし子

平成15年7月23現在